

未来へつなごう!クラリネットが紡ぐ音楽史

昭和初期の邦人作曲家が残したクラリネット作品がここに蘇る!

Part II

過去からのメッセージ



2022

12|23 金 19:00 開演
(18:30 開場)

武蔵野音楽大学 江古田キャンパス内
ベートーヴェンホール

アーカイブ配信があります。

Web視聴チケット / 2,000円



■販売ページURL

https://dolce-classic-ch.com/products/detail.php?product_id=424

■販売期間: 2022/11/6(日)5:00pm~2022/12/28(水)5:00pm

■視聴期間: 2022/12/26(月)5:00pm~2023/1/9(月)5:00pm

※配信撮影のため客席が映り込む場合がございます。

※アーカイブ配信では演奏曲目の一部が静止画または配信されない場合がございます。

お問合せ | 一般社団法人日本クラリネット協会 jca@jp-clarinet.org

【主催】一般社団法人日本クラリネット協会
【協力】武蔵野音楽大学
【協力・楽譜提供】神戸女学院大学大澤壽人遺作コレクション
明治学院大学遠山一行記念日本近代音楽館
加須市教育委員会
奇藤民夫(敬称略)
【協賛】株式会社石森楽器
株式会社ビューフェ・クラリネット・ジャパン
株式会社トルチェ楽器
管楽器専門店タタ
ザクラリネット ショップ
セントラル楽器
ナイス・インターナショナル
野中貿易株式会社

【助成】文化庁令和3年度補正予算事業「ARTS for the future! 2」

CA 一般社団法人
日本クラリネット協会

Dolce
Live&Online
Hybrid Concert

ARTS
ARTS for the future! 2

大澤壽人（おおさわ ひさと）（文：生島美紀子／大澤資料プロジェクト代表）

大澤壽人（1906-53／明治39-昭和28年）は神戸に生まれ、関西学院卒業の1930（昭和5）年にアメリカに留学。ボストン大学とニューイングランド音楽院で学んだ。ボストンの先進的な音楽文化の影響を受け、またアメリカに移住したA. シェーンベルクに感化され、頭角を現した。次々に完成した《交響曲第一番》《コントラバス協奏曲》などの交響大作は、戦前の日本洋楽史に燦然と煌めく。その実力はS. クーセヴィツキに認められ、日本人として初めてボストン交響楽団を指揮した。

1934（昭和9）年にフランスに渡り、エコールノルマル音楽院に入学。P. デュカの門下に入り、N. ブーランジェの個人レッスンを受けた。翌年にはコンセールパドゥール管弦楽団を自ら指揮して、《交響曲第二番》などを発表。当日はA. オネゲルやD. ミヨー等が来場し、演奏会評ではJ. イベールに称賛されるという、華やかなパリデビューを飾った。

1936（昭和11）年帰国。しかし日本は戦争に向かう暗い時代で、海外で脚光を浴びた先鋭の作風は理解されなかった。だが屈せず、戦中はラジオ放送や映画音楽を中心に創作を続け、戦後は音楽による心の復興を掲げて社会を牽引した。その最中に47歳で急逝。国際的なキャリアもあれほどの活躍も忘れられ、いつしか幻の存在となった。その後、半世紀を経て奇跡的な復活劇が起き、「現代に通じるモダニズム音楽」と再評価が著しい。

木管三重奏曲（Ob,Cl,Fg）（昭和10年/1935年）

オーボエ、クラリネット、ファゴットのための《木管三重奏曲》は、大成功したパリ公演直後の作品で、1935（昭和10）年11月26日頃に完成した。「日本的な主題による変奏曲」と記され、基となったのは伝統的な数え歌、《一つとや》と思われる。12小節の短い主題に7つの変奏が続き、各旋律が対位法的に扱われながら、拍子や調やテンポが繊細に変化していく。

パリの聴衆が喝采した歌曲《桜に寄す》は、《さくらさくら》を引用している。長く母国を離れた大澤にとって、日本古謡は和魂の表出であった。《木管三重奏曲》における《一つとや》も、大澤の郷愁に近い心情であろう。同時に、調性から無調に移り変わる1930年代の西洋音楽の特徴を書法が示す点で、「西洋の様式からあふれ出る日本」と言えよう。

初演に関しては「トリオ・ダンシェによる委嘱作品、パリにて放送」と作品表に記されているが、日本での演奏記録は確認されていない。本日のコンサートは、おそらく、創作から87年を経た「本邦初演」である。